

議会を観ての生の声

3月定例会の傍聴者数のべ27人、ライブ配信再生回数807回 録画配信再生回数286回(4/27時点)

難聴者に理解あるまちづくりを



みやの そのえ
宮野 園恵さん
(美咲野)

初めて議会の傍聴をしました。議員の皆さんの限られた時間内での真剣な質疑応答、配られた資料にも町民に対する思いが感じられました。

その中でも「手話言語条例」を取り上げてくださった質問がうれしく思いました。

私の周りには聞こえない・聞こえにくい人が幅広い年齢でいらっしゃいます。特に高齢で聞こえにくくなった人は「手話を習っておけば良かった」と後悔されています。子ども達が皆、小さい時から手話に馴染んでいれば、自分が高齢になり難聴になっても子どもや孫とも手話で会話ができ孤立しない、こんな世の中を実現できる。もし手話がなくてもアプリなどで、ろう者・難聴者の理解がある大津町になる事を期待します。

多くの人に手話言語条例について関心を持ってくださるといいな

○議会への提言・疑問・質問などをお寄せください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

○今回の議会だよりで関心のある記事や感想があればお書きください。また、もっと読みたくなるような「アイデア」があればお寄せください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



まえはし えみこ
前橋 恵美子さん
(つつじ台)

大津町でも手話言語条例制定の話があると聞いて議会でweb配信で傍聴しました。

どうして手話に興味があるかという、かつて手話サークルに入り、手話を使って生活をしている友人と出会い、今でもつきあいがいるからです。

手話を教わってビックリした事がいくつもあります。今では当たり前のことも昔は違ったそうですから、これまでの取組みで改善されてきたんですね。

最近では、ドラマ「サイレント」や「星降る夜に」が放送され、手話に注目した方もいらっしゃると思います。

多くの人に手話言語条例について関心を持ってくださるといいなと思いつつ、この感想を書いています。

現在は大津町の手話サークルに在籍しており、役場ロビーにて手話教室が開催されていますので時々参加しています。

相手の思いを分かり合える大津町になれば嬉しいです。

若者の視点

尚絅大学生によるレポート 31

大津町議員との意見交換会を終えて

さる4月21日(金)に、尚絅大学九品寺キャンパスにて大津町議会の広報委員5名と尚絅大学現代文化学部1年生の「社会調査法」という授業の受講生14名とで意見交換会を行いました。学生からは多方面にわたった質問があり、とても有意義な意見交換ができました。以下2名の学生の感想をご紹介します。



大津町議会だよりは表紙がおしゃれ

議員たちの話を聞いて、まずいろいろな理由で議員になられたり、同じ大津町の議員でも目指していることや考えが違ったりしていることを初めて知った。

議会だよりについては、家に市のたよりがあるが、実際に読むことはなかった。表紙はともいい写真が使われているのだが、その先を読もうとは思わなかった。しかし、大津町議会だよりは表紙がおしゃれで、読んでみようと思われた。

聞いてみると、まずページの端に目次がついていたのでとても読みやすく、またさまざまな色や写真、イラストなどが使われていたのが想像がしやすく、大津町に住んでいない私でも大津町について少し理解ができた気がする。

また、熊本県町村議会だよりコンクールで特選と評されたそうで、とても努力してみんなが読みやすい、読みたいと思えるたよりを作られたと思い、私が住んでいるところのたよりも読んでみようと思われた。ほかにも、学生から意見が出たことにすぐに取り組んでおられたり、学生の意見を取り入れて作ろうという姿勢がみられ、とても感心した。若者の意見を反映させるために、私も選挙にこれから参加していこうと思うようになった。



現代文化学部
1年
もりなが
森永 りんさん



現代文化学部
1年
いわもと
岩元 美玲さん

行政用語を多用していても十分に見やすい

私は議会だよりについては印象に残っている点が4つあった。まず1つ目に問いと答えが対になって見出しになっていること。2つ目に写真やQRコードの挿入が多いこと。3つ目に色とフォントの使い分けがされていること。4つ目に楷体で書かれていることで文字数の省略である。私はこの4つの要因から行政用語を多用していても十分に見やすい文章が構成されているのだと考えた。

そして、最後の質疑応答では、議会で優先されやすい議題について尋ねると、住民からの要望が強いもの、国全体で取り組まなければならない物事の優先順位が高いという返答があった。このことから議員の方々は住民の意見と真摯に向き合われているのだろうと思った。また、住民の意見に対して早急に問題解決に務める仕事は大変ながらもやりがいがありそうだとつくづく感じた。